

令和7年度学校評価（最終評価）

本年度の 重点目標 （評価項目）	①各部における目指す子供像の確立を目指し、系統性のある教育課程の構築を図る。			
	②業務の効率化・マニュアル化を図り、働きやすい職場環境づくりを推進する。			
	③児童生徒一人一人に対する高い人権意識とそれに基づく実践力の向上を図る。			
自己評価				
担当	重点目標	具体的方策	達成率	取組状況及び改善点
総務部	保護者に対して必要な情報をメールで発信する。②	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A総会、役員会の開催について、案内文、アンケートを電子メールや入力用フォームを活用した方法で行う。 ・ 2学期の学校評価アンケートに、学校からの情報発信についての項目を設け、保護者からの意見を聞く。 	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A総会の出欠に関するアンケートを入力用フォームで行ったことで、集計面で効率化を図ることができた。今後は、役員会の案内や事前の資料等をメール送ることができるように進めていきたい。 ・ 学校評価アンケートで、学校からの情報発信について8割以上の保護者より肯定的な評価を得ることができた。一方で、「どこに、どのような情報があるのか分かりにくい」という意見もあった。今後は、メール本文からHPを開けるようにするなど、必要な情報をより簡単に確認ができるように工夫していきたい。
教務部	個別の教育支援計画・指導計画の効果的な活用について検証する。①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談等をおして保護者の思いを聞き取り、それらを反映した支援・指導計画を作成する。 ・ 作成した支援・指導計画を基に、評価の三観点を意識した授業を行う。 ・ I期終了後より、現在の支援・指導計画の問題点を洗い出し、次年度以降に様式が変更できるように準備を進める。 	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談等をおして保護者との連携を図り、思いを反映した支援・指導計画を作成した。また、月に1回程度、作成した支援・指導計画を見直し、授業の改善を行った。 ・ 職員アンケートを基に支援・指導計画等様式や提出時期の見直しを行い、令和8年度以降の変更スケジュールを決定した。
情報図書部	教員の授業・校務に使えるICT技術のスキルアップを図る。①②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月に1回程度教員向けのICT通信を発行し、授業や校務で使えるICTの情報発信を行う。 ・ 授業や校務で使えるICTの研修会を行う。 	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月に1度のICT通信の発行や、夏季休業中に研修を行った。年度末の教員へのアンケートでは、校務におけるクラウドの活用について8割以上の教員が「ICT技術が向上した」と回答している。一方、授業における生徒用端末の活用については、「指導技術が向上した」と回答した教員は2割に留まった。今後は生徒用端末の授業での活用についての情報発信を積極的に行っていきたい。
研修部	現在の生活単元学習の指導計画を見直し、各教科の目標を達成するために必要な指導内容を考察し、各学年で単元を考える。①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究のテーマとして全教員で取り組む。 ・ 生活単元学習における各教科の取扱について、1学期1回、夏季休業中1回講義を行い、全教員の理解を深める。 ・ 学習指導要領の指導内容を基にして、現在の年間指導計画の「2 指導計画」の内容を2学期に見直す。 ・ 3学期に反省アンケートを実施する。 	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回の研修会を行い、年度末の教員へのアンケートでは、約9割の教員が「教育内容と指導の形態や、生活単元学習における各教科の取扱についての理解を深めることができた」と回答している。 ・ 個人やグループ単位での研修では、学習指導要領の各教科の指導内容を再確認し、現在の年間指導計画では不足している学習内容を洗い出すことができた。また、不足している学習内容を盛り込み、学習計画を作成することができた。
生活指導部	いじめについて、未然防止や早期発見に取り組み、適切に対応する。①③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校いじめ防止基本方針」を職員会議で周知し、保護者にもHPで提示する。 ・ いじめが起こった場合、いじめ対策委員会を開き組織的に対応する。 ・ 高等部生徒を対象に、生活アンケートを年2回（7月、1月）実施する。 ・ 生徒会活動として、いじめ防止啓発ポスターや標語を作成し、校内に掲示したり、給食の時間にいじめ防止について放送したりする。 	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校いじめ防止基本方針」について職員会議で職員に周知するとともに、HPで提示した。 ・ 年2回、生活アンケートを実施した。緊急性のある事案は認められなかった。日頃から、生徒の様子を観察して共通理解を図り、生徒指導における未然防止教育に取り組んだ。 ・ 集会でいじめ防止についての発表をしたり、ありがたいの気持ちを手紙に書いて伝える活動に取り組んだりして、人権の大切さを他の生徒に伝えることができた。 ・ 本年度のいじめの認知件数は0件である。

<p>進路指導部</p>	<p>児童・生徒や保護者へ効果的に進路に関する情報を届ける。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路に関する方針や進路スケジュールが、HP上からいつでも見られるようにしておく。 ・7月、2月に発行している進路ニュース及び福祉事業所見学先一覧は紙面もしくは電子メールでのお知らせにQRコードを記載し、HPからも確認できるようにする。 ・夏季休業中に行っている福祉事業所見学会では、事業所への依頼を電話や直接訪問ではなく、電子メールで行う。 ・高等部進路説明会は、対面での講話だけでなく録画した動画を保護者限定での配信を行い、アクセスしやすい環境を用意する。 	<p>90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや電子メール、動画配信サイトを活用することで、本人や保護者にとって情報にアクセスしやすい環境を用意することができた。 ・夏季休業中に行っている福祉事業所見学会など、外部への依頼を電話や訪問ではなく、電子メールを一斉送信する方法に変更したことで、業務の効率化を図ることができた。 ・保護者進路学習会への出欠アンケートを入力用フォームで行った。しかし、紙面と比べて返答率、参加率ともに低かった。今後参加率等を高めていけるよう工夫を続けていきたい。進路説明会では、教員が講師をした際の動画を限定配信し、情報にアクセスしやすい環境を整えることができた。
<p>保健体育部</p>	<p>緊急対応マニュアルやヒヤリハット事例を共有しやすいものになるよう見直す。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時でも一目見てどんな行動をすればよいか分かるよう、視覚支援を用いたマニュアルやアクションカードを8月末までに作成する。 ・9月に緊急時のシミュレーション研修を行い、周知する。 ・月に一回、グループウェアのアンケート機能を使ってヒヤリハットの事例を集め、グループウェア等を活用して周知する。 	<p>90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションカードを作成し、9月初旬に全教職員を対象としたシミュレーション研修を実施した。アクションカードを活用することで、緊急時での役割が分かりやすかったという感想が多く見られた。 ・ヒヤリハットの一覧表を作成し、事例が発生したら随時入力できるようにした。入力された事例や講じた手立て等をグループウェアで周知した。入力件数を増やすことが課題である。重大事故の未然防止に向けて、引き続き職員の意識の向上を図っていきたい。
<p>相談支援部</p>	<p>あゆみ研修会において業務の効率化を目指す。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設、幼稚園、小学校、中学校、高等学校への研修案内を一斉配信する。 ・入力用フォームを準備し、受付名簿や名札、アンケートを作成する。 	<p>90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する市の幼小中学校、就学前施設への研修案内を一斉配信することで、業務の効率化を図ることができた。次年度以降も継続していきたい。 ・入力用フォームを作成し、参加者の募集をした。名簿や名札に続き、研修後のアンケートも当日入力できるよう改善したことで、業務に要する時間を減らすことができた。
<p>勤務時間の適性な管理及び長時間労働による健康障害防止について</p>		<p>「愛知県公立学校働き方改革ロードマップ」に基づき、校務DXの推進、学校行事の見直し、適切な施錠時間の設定等の業務の効率化を進めた。教育課程の見直しでは、年間標準時数を超える余剰時数を活用し、令和8年度より計画的に短縮授業を実施する予定である。引き続き業務改善を推進し、働きやすい職場環境の実現を目指していく。</p>		
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> ①教育活動の質の向上（連続性・系統性のある教育課程の構築） ②学校の組織力の向上（業務の効率化・マニュアル化） ③教員の資質・能力の向上（人権意識とそれに基づく実践力の向上） 		